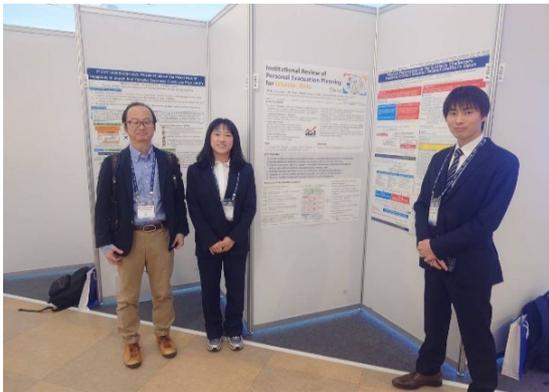


## 【学際活動】第15回 アジア太平洋災害医学会に参加しました (2024/11/25-26)

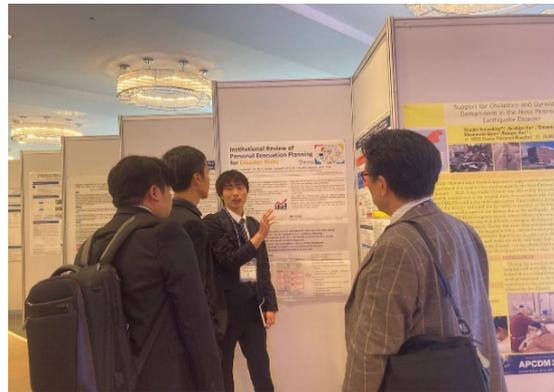
テーマ：災害対応におけるコラボレーション、コーポレーション、コーディネーション  
会場：韓国、ソウル、ザ・Kホテル

災害医学研究部門災害医療国際協力学分野の江川新一教授、佐々木宏之准教授、朴慧晶助教、博士2年の坪井基浩氏（さいたま赤十字病院高度救命救急センター）は、2024年11月25～26日、韓国ソウルで開催された「第15回アジア太平洋災害医学会（Asia Pacific Conference on Disaster Medicine：APCDM）」に参加し、研究成果を発表しました。佐々木准教授は「Interdisciplinary Research about the Flood Risk of Hospitals in Japan and Hospital Business Continuity Plan (BCP)」のタイトルで、水害時における病院の緊急管理システムとBCP（Business Continuity Planning）、またその対策を発表しました。朴助教は日本の個別避難計画の制度的レビューとより効果的な適応のために考えるべきことについて「Institutional Review of Personal Evacuation Planning for Disaster Risks」を発表しました。最後に、坪井氏は江川教授の指導で、災害関連死についての「Medical Perspective on the Systemic Challenges Involving Indirect Disaster-Related Deaths in Japan」を発表し、様々な議論をしました。

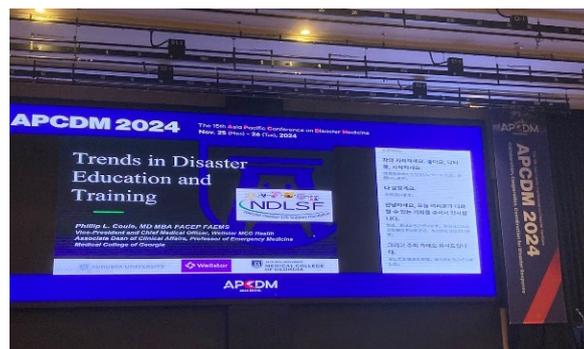
本学術集会では、「災害対応におけるコラボレーション、コーポレーション、コーディネーション」のテーマで、様々な災害・緊急状況を経験したアジア太平洋地域の災害医学関係者から経験や知見が報告されました。特に、アジア太平洋地域の災害医学協力システムを構築するために消防機関、看護グループ、軍隊などと協力する必要がある、と強調されました。今回のAPCDMは、2025年3月の名古屋での第30回日本災害医学会と5月の東京での第23回世界災害救急医学会（WADEM）のシリーズの一つとして位置づけられています。社会の防災力・災害時のウェルビーイング向上のため、災害医学の領域は様々な分野との連携・協力が必要となります。



ポスターセッションの様子



ポスター発表中の坪井氏と江川教授（右端）



会場の様子

文責：朴慧晶、佐々木宏之、江川新一（災害医学国際協力学分野）